

---

主しゅがあなたを祝しゅく福ふくし、あなたを守まもられるように。

主しゅが御み顔かおを向むけてあなたを照てらし、あなたに恵めぐみを与あたえられるように。

主しゅが御み顔かおをああなたに向むけて、あなたに平へい安あんを賜たまるように。

— 民みん数すう記き 6 章しやう —

---

2016年 春 旅立ち

君たちを想うと、心がさわぐ。君たちのことを考えると、時に心が熱くなり、痛くなり、そして温かくなる。一番の思ひは、私が君たちに何をしてあげただろうか、ということだった。

君たちは、苦しんだ。喜んだ。じつと我慢した。泣いた。

泣いて、沈んだ心の分だけ、命がずうーっと深く根を下ろし、

君はまた、心のやわらかく、やさしい人間になっていた。

それは、きつと君を強くするだろう。

どこにいても、忘れないでほしい。人の弱さばかり、受け入れなくていい。

自分の弱さ、いくじなさ、はずかしさ、いじっぱり、それもゼーンぶ自分であって、それを、全然、認めていい。

トータルで勝負すればいい。

どうか、一部分も否定せずに、自分のすべてを認め、好きなことを続け、

続け続けて、生きてゆけ。

時々、帰ってきて、報告をください。